

【第8号様式】おきなわSDGs認証制度会員レポート（認証を受けた日から1年経過時）

1. 団体情報

企業・団体名	株式会社セブン-イレブン 沖縄
--------	-----------------

2. 申請内容

(1) 2030年のあるべき姿（ビジョン） ※記載必須

2030年のあるべき姿（ビジョン）	
<p>*SDGsの目標である2030年までに、「(2) 今後2年間で特に注力する活動・取組」の実施によって、貴社が目指す未来を記載ください。 (貴社が目指したい社会、目標の達成に向けて貴社が考える課題、それに対して貴社ができる取組の方向性を)</p>	<p>2030年のあるべき姿の実現へ向け取り組む目標 *SDGsの17のゴールから選択し、アイコンを入れてください。</p>

弊社を含むセブン&アイグループでは、豊かな地球環境を未来世代につなぐため、2019年に「GREEN CHALLENGE2050」という環境宣言を策定し、「脱炭素社会」「プラスチック対策」「食品ロス・食品リサイクル対策」「持続可能な調達」という4つのテーマから「2030年の目標」、「2050年の目指す姿」の具体的な数値を掲げています。沖縄県においてもこのグループの環境宣言に沿った取り組みを行いながら、沖縄県SDGsの取り組みを実施し「地域のお客様に愛されるお店作り」を進めてまいります。

(2) 今後2年間で特に注力する活動・取組 ※最低3個（社会・環境・経済）は記載必須

No.	今後特に注力する活動・取組		優先課題	SDGs推進の目標	関連するSDGsターゲット	申請団体以外に連携・協力するステークホルダーがある場合は記入する。	補足事項・留意点等 *補足事項等があれば記入する。	貴団体におけるKPI（進捗管理指標）				KPI達成度	活動・取組結果備考 *現状が取れない場合はその理由や、数値に対する補正がある場合はその内容を記入ください。	
	概要	分類 *任意の欄は、フルクワンから分類を選択ください。						進捗状況 (2022/2023年度)	目標値 (2025年度)	現状 (2022年8月時点) (2023年8月時点)	基本式 = (現状値 - 当初値) / (目標値 - 当初値)			
1	沖縄県産農産物の活用 オリジナル商品の開発、使用原材料の拡大	経済	優先課題 ④	沖縄県産農産物の活用による県外消費と地産地消の促進による農業・林業・水産業の産出額等の拡大を実現する。	8.9	仕入れ先・製造元として沖縄県内生産者、企業		管理する指標 ①沖縄県内における販売アイテム数 ②沖縄県内における沖縄県産（原材料）使用量	①2023年度実績を100とする ②2023年度実績を100とする	①2025年度実績135%以上 ②2025年度実績135%以上	①150% ②43.5%	①143% ②▲161%		
2	小中高生、大学生向けの学習支援や、事業を志した体験学習の場の提供	社会	優先課題 ③	時代に対応し、生きる力を育み、多様な学びの場場の形成を実現する。	4.4 12.8	県、各市町村の教育委員会		年間の出講講座、体験学習の回数	8回 (2022年度)	12回 (2025年度)	8回	50%		
3	ペットボトル回収機を設置したサイクルの推進	環境	優先課題 ⑦	持続可能な消費・増産、自然と調和したライフスタイルの形成、廃棄物削減などにより「資源循環型」の社会を実現する。	12.5	回収機の出荷先・セブン-イレブン加盟店各店 回収機、一次加工；フェイス沖縄(株)	沖縄県内の販売ポイント回収本数	2023年度実績を100とする	2025年度実績150%	110%	①20%	23年度と投資台数に変化なし		
上記の取組に加えて、今後特に注力する取組があれば、記載ください。（分類を「社会・環境・経済・ガバナンス・地域課題への貢献・国際課題への貢献」から自由に選択ください）														
4			任意											
5			任意											

(3) 各活動・取組に関する詳細 ※記載必須

各活動・取組に関する詳細	
*各取組内容を詳細に記載ください。なお、取組については現時点の達成度に限らず、将来的な展開や今後目指す展開についても必ず記入してください。	
取組1	<p>取組の詳細 沖縄県産を使用したオリジナル商品を沖縄県内のセブン-イレブン店舗にて販売。商品の企画については全国のセブン-イレブン店舗にて販売する体制を構築し、沖縄県産の地産地消、消費量拡大を図る。</p> <p>取組において、現時点で実施/決定していること 沖縄県産を使用した商品のアイテム数の増加の検討</p> <p>取組において、今後予定していること 継続して販売している沖縄県産を使用した商品（パン、デザートなど）のアイテム数の増加 全国のセブン-イレブンと連携して全国での「沖縄フェア」開催に向けての打合せ</p> <p>KPIとする指標の設定理由、目標値の妥当性、指標の計画方法 2年後の沖縄県内セブン-イレブン店舗数見込み：215店、2023年8月現在在沖縄県内セブン-イレブン店舗数：161店舗、伸び率133.5% 現時点の沖縄県内販売販売アイテム数、消費量を100として、2年後の沖縄県消費量を店舗増加率以上の135%以上と設定する。</p> <p>取組を推進する体制 沖縄県内の生産者・製造者・沖縄県産物協同組合、沖縄県産物ミット運営事務局、沖縄県と連携し、沖縄県産の需要拡大に向けた取り組みを強化する。</p>
取組2	<p>取組の詳細 市民生活に近い小売業として、身近にできる取組みを体験学習や体験学習の場を提供する。</p> <p>取組において、現時点で実施/決定していること 県内高校への職業人講話を定期的に実施中。沖縄県内の高校に対し、職業人講話として、社会人としての心得やセブン-イレブンの体制説明、今後出てほしい商品の意見を聞いていたり。過去、今後出てほしい商品の意見を受けて、一部店舗で商品化したものもある。 また、小中高生向けの体験学習を受け入れを実施するほか、エリア内セブン-イレブンから学校に送るセブン-イレブンについての説明、日々の業務の内容、納品から発送までの説明などを行っている。</p> <p>取組において、今後予定していること これまでの取組に加え、社内外の協力企業と共に環境取組推進の見学会、体験会の実施。職業人講話の講師の拡大を検討し、取組の拡大を目指す。</p> <p>KPIとする指標の設定理由、目標値の妥当性、指標の計画方法 月1回の頻度で実施。</p> <p>取組を推進する体制 各教育委員会との連携強化。 また、他企業が関係する体験学習と連携して同時に学習することも想定。</p>
取組3	<p>取組の詳細 セブン-イレブン店舗へペットボトル回収機を設置し、お客様を含めた県民全体で参加型のリサイクルを実施。回収されたペットボトルをペットボトルに再生させ、資源として循環させる「ボトルtoボトル」を推進する。</p> <p>取組において、現時点で実施/決定していること 県内に85台の回収機を稼働（2023年8月時点）、沖縄県、第十一管区海上保安庁の後援をいただき、回収促進スタターを設け。</p> <p>取組において、今後予定していること 2025年を目標に100台まで拠点拡大することで、更なる事業の認知拡大、積極的なリサイクルの推進を目指す。</p> <p>KPIとする指標の設定理由、目標値の妥当性、指標の計画方法 回収機85台⇒100台まで増設、活動の認知により回収本数を2023年を起点とし、2025年までに150%を目標とする。（店舗数増加及び活動認知率の上昇を踏まえた目標設定） 回収機に集計機能があり、これにより回収した本数を把握することが可能。</p> <p>取組を推進する体制 既存の投資加盟店舗、収集運搬業者（リサイクル業者）だけでなく、後援団体、ボランティア団体等との連携強化により体制を構築する。</p>

(4) 活動・取組結果

活動・取組結果	
*活動・取組結果を詳細に記載ください。なお、(2)のKPI達成度が低い活動・取組結果については、今後の改善策をできる限り記入してください。 *【(3)各活動・取組に関する詳細】に記載の内容に対応する形で、活動・取組結果を記入してください。	
取組1	<p>24年度はアイテムの幅を広げて対応実施することができた。カテゴリーも定番のデザート分門だけでなく、ベストリー（パン）、おにぎり、弁当と幅を広げることが出来ている。 しかしながら、全国共通のフェア関連商品の販売はなかなか沖縄県内での取組が広がっていないことが、使用量増大の大きな要因の一つ。 25年度については、24年度以上にアイテムの幅を広げつつ、定番商品の沖縄県産への見直しを実施し、県産品を使用した商品について年間を通して提案することにより、沖縄県産の使用量を増やしていく。 また、「黒糖の日」などのイベント対応のみならず、日常から無糖を使用した商品の開発を進め目標達成に向けて取り組んでいく。</p>
取組2	<p>24年度、出張授業に関しては今まで行ってきた県立高校への「職業人講話」だけでなく、他企業と連携した「ライフプランニング講座」を開催し実施し実際に小学生に体験してもらって「体験授業」の実施、小学校への出張授業の実施など、幅広く対応することが出来ている。弊社グループのホームページにおいても小学生を対象とした出張授業の受付を行っており、今後認知や実施が高まれば更に回数が増える見込み、環境取組推進の視点を欠いては来年度、25年度に関しては、各市町村の教育委員会と連携し、定期的な実施に取り組めるスキームを構築し目標達成を目指していく。</p>
取組3	<p>24年度についてはペットボトル回収機は増設はなし。 25年度に関しては、ペットボトルの回収機を増設するとともに、現状稼働している85台の設置店舗の見直しを実施し、より需要の高い店舗に設置することにより回収本数の増大を図る。 また、行政機関・企業と連携してのペットボトル回収機スタターにより回収本数増大を図る。</p>